

はじめに

国土交通省では、平成 15（2003）年に公表した美しい国づくり政策大綱の中で、公共事業における「美しさの内部目的化」を宣言しました。また、景観法の施行（平成 16 年）によって地方自治体における景観形成の取り組みがこれまでに増して広がりを見せています。こうした状況から、公共事業の実施において「よい景観」を生み出すことへの必要性和社会的要請が以前にも増して高まっています。

公共事業における景観形成を図る上での具体的な取り組みとして、国土交通省では、景観検討の手続きや枠組みを示す「国土交通省所管公共事業における景観評価の基本方針（案）」を策定し、平成 16 年から直轄の 44 事業を対象として試行しました。平成 19 年にはこれを「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）」として改定し、全ての直轄公共事業を対象に運用を始めました。また、平成 18 年度に道路や河川など各事業分野の景観形成ガイドラインが出揃い、景観を考える際の技術的指針を示しました。

このように公共事業における景観形成について、体制や手続き、技術指針の整備を進めていますが、土木分野では景観・デザインに配慮した設計を行う際に参考となるような「よい事例」を集めて解説した資料集がほとんどありません。

公共事業の現場で景観形成の方向性を議論し、具体的な設計に反映させていくには、これまでどのような事例がよい景観として評価されてきたのかを予備知識として知っておく必要があります。また、折りに触れて先人のすぐれた計画・設計の考え方を参照することは、全ての技術者にとって重要なことです。しかし、現状では残念ながらそれができる環境が整っているとはいえません。

そうした状況を踏まえ、土木構造物の規範的デザイン事例を選定し、公共事業における「よい景観」の方向性を示すとともに、景観・デザインに配慮した計画・設計の際に参考となる技術的情報を整理したのが本資料です。

本資料が、公共事業の計画・設計に携わる行政担当者やコンサルタント等の多くの方々に参照・活用され、我が国の公共空間において良好な景観形成を進める上での一助となれば幸いです。

刊行によせて

土木のデザインを志す者にとって、最良の教師は実在するものであり、そのものが存在する現実の空間である。美しい橋、気持ちのよい水辺、それらに感動することによって、自分もデザインをしてみたいという情熱が生まれる。

この感動に続く学習は専門教育によってもよいし、独学であってもよい。しかし学習過程にあって少なくとも2つの困難が生ずる。その1は、経験不足の若い時代にあっては、何がよいもの、よい空間であるかの判断に自信が持てないことである。その2は、設計にあってはものの具体的な形、寸法を決める必要があるのだが、その定め方に自信が持てないことである。

専門教育の場では講義と設計演習を通じて、教師が様々な示唆を与えてくれるであろう。しかし、その教師として万能ではない。橋には強くとも水辺には弱いかも知れない。道路・街路、橋、公園、河川、海岸・港湾等と多岐にわたる土木全般に通じた教材が欲しくなる。これはむしろ、デザインを教える側の教師の偽らざる心境であろう。

独学で学ぼうとする者には状況は一層深刻である。何か手掛りが欲しい、出来れば教材が。どのような橋がよい橋で、その形（プロポーショナル）、寸法はどうなっているかを教えてくれる教材が。

今回の「景観デザイン規範事例集」は以上に述べた若い技術者と技術者の卵

の要請に応えようとする初めての試みである。土木の各専門分野において実際にデザインを実践してきた経験豊富な技術者が集まり、編集、執筆、図版製作、写真撮影に当たった。各専門分野でデザインに定評のある事例を取り上げ、何故よいのかを可能な限り丁寧に解説した。

土木の隣接分野である建築では、すでに昭和17（1942）年に「建築設計資料集成」が出版され、長らく建築デザインを学ぼうとする若い建築家の座右の書として使われてきた。本事例集は、この建築の先例に習おうとするものだと言ってよい。但し、注意しなければならないのは、単独で完結する建築とは違って、土木は複数の構造物や施設が連繋して一つのシステムとして機能している点であり、立地と相互の配置が極めて重要となるという点である。又、河川やダムは言うに及ばず、自己完結した形と思われる橋梁においてすら、大地の形—地形との関係がデザインにおいて決定的な意味を持つという点である。

従って本事例集では、施設や構造物の形、寸法にもまして、それらの地形上の立地と地形との取り合いに記述のスペースをさいている。

先にも述べたように、本事例集は土木の分野における初めての試みである。執筆、編集に携わった諸兄の労を多とするとともに、本書が若き技術者のデザイン実践や設計演習の友なることを希っている。

平成20年1月吉日

土木学会 景観・デザイン委員会
土木デザイン集成編集小委員会
委員長 篠原 修

目次

はじめに	i
刊行によせて	iii
規範事例集の作成方法	vii

【道路編】

道路分野における候補事例の収集	道路編 - 1
道路分野規範事例候補リスト	道路編 - 3
道路分野における規範事例選定の考え方	道路編 - 18

規範事例集【道路編】

事例位置図	道路編 - 001
1. 東海道	道路編 - 002
2. 日光御成街道・日光例幣使街道・会津西街道	道路編 - 006
3. やまなみハイウェイ	道路編 - 010
4. 芦ノ湖スカイライン・箱根スカイライン	道路編 - 014
5. 二十間道路	道路編 - 016
6. 定山渓国道	道路編 - 018
7. 日光宇都宮道路	道路編 - 024
8. 千葉東金道路（二期）	道路編 - 030
9. 道央自動車道（和寒～士別・剣淵 IC）	道路編 - 034
10. 休憩施設	道路編 - 038
引用・参考資料リスト	道路編 - 042
図版出典リスト	道路編 - 043

【橋梁編】

橋梁分野における候補事例の収集	橋梁編 - 1
橋梁分野規範事例候補リスト	橋梁編 - 3
橋梁分野における規範事例選定の考え方	橋梁編 - 19

規範事例集【橋梁編】

事例位置図	橋梁編 - 001
1. 錦帯橋	橋梁編 - 002
2. 永代橋・清洲橋	橋梁編 - 006
3. 武庫大橋	橋梁編 - 012
4. 天神橋	橋梁編 - 016
5. 西海橋	橋梁編 - 018
6. 十王川橋	橋梁編 - 020
7. 横浜ベイブリッジ	橋梁編 - 024
8. 横向大橋	橋梁編 - 028
9. 鶴見橋	橋梁編 - 030
10. 牛深ハイヤ大橋	橋梁編 - 032
11. 苦田大橋	橋梁編 - 036
12. 歩行者専用の橋	橋梁編 - 038
引用・参考資料リスト	橋梁編 - 040
図版出典リスト	橋梁編 - 041

【街路編】

街路分野における候補事例の収集	街路編 - 1
街路分野規範事例候補リスト	街路編 - 3
街路分野における規範事例選定の考え方	街路編 - 19

規範事例集【街路編】

事例位置図	街路編 - 001
1. 知覧武家屋敷通り	街路編 - 002
2. 中山道・奈良井宿	街路編 - 006
3. 銀座中央通り	街路編 - 008
4. 御堂筋	街路編 - 010
5. 青葉通・定禅寺通	街路編 - 014
6. 絵画館前通り・表参道・内外苑連絡道路	街路編 - 016
7. 大通・大通公園	街路編 - 020
8. 元町通り	街路編 - 022
9. 皇居周辺街路	街路編 - 026
10. 水辺の街路	街路編 - 030
11. 坂道	街路編 - 034
12. 歩行者系街路	街路編 - 036
13. オープンカフェ	街路編 - 038
引用・参考資料リスト	街路編 - 040
図版出典リスト	街路編 - 041

【公園編】

公園分野における候補事例の収集	公園編 - 1
公園分野規範事例候補リスト	公園編 - 5
公園分野における規範事例選定の考え方	公園編 - 21

規範事例集【公園編】

事例位置図	公園編 - 001
1. 西都原古墳群	公園編 - 002
2. 上野公園	公園編 - 006
3. 砧公園	公園編 - 010
4. アルテピアッツァ美唄	公園編 - 014
5. 古河総合公園	公園編 - 018
6. モエレ沼公園	公園編 - 022
7. 長崎水辺の森公園	公園編 - 026
8. 震災復興小公園	公園編 - 030
9. 多摩ニュータウン・港北ニュータウン	公園編 - 032
10. 大清水空間	公園編 - 036
11. 児ノ口公園	公園編 - 040
引用・参考資料リスト	公園編 - 044
図版出典リスト	公園編 - 045

規範事例集の作成方法

(1) 規範事例集について

規範事例集とは、公共事業における景観デザインの規範となる事例を集めたものである。規範事例は、優れたデザインあるいはスタンダードなデザインとして既に評価の定まっているもの、及び下記委員会での議論を経て規範たりうるとされた現存の構造物とした。対象分野は河川、海岸・港湾、道路・街路・橋梁・公園である。

(2) 検討体制

本事例集の検討は、土木学会景観・デザイン委員会の中に「土木デザイン集成編集小委員会」を設けて実施した。

(3) 作成手順

本事例集の検討は次の手順で行った。

- ①文献・資料より候補になると思われる事例を収集し、事例リストを作成した。
- ②各部会において、分野ごとの事業の特徴に配慮しながら事例リストを整理する視点を整理し、10 事例程度を目処に規範事例集に掲載する事例を選定した。
- ③掲載する事例について、事業の概要や設計の考え方、図面・写真等を入手するため資料収集及び現地調査等を行った。
- ④収集した資料をもとに事例集素案を作成した。
- ⑤各部会及び親委員会での意見に基づき必要な加筆修正、資料の追加等を行い、規範事例集として編集した。

土木デザイン集成編集小委員会

■親委員会

委員長	篠原 修	政策研究大学院大学教授
委員	島谷幸宏	九州大学大学院教授
委員	齋藤 潮	東京工業大学大学院教授
委員	田村幸久	大日本コンサルタント株式会社専務取締役
委員	中井 祐	東京大学大学院准教授
委員	天野光一	日本大学教授
委員	北河大次郎	文化庁文化財部参事官付文化財調査官
委員	兼子和彦	株式会社地域開発研究所取締役

■部会

●河川部会

部会長	島谷幸宏	前掲
委員	吉村伸一	株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役
委員	伊納 浩	株式会社地域開発研究所主任研究員

●海岸・港湾部会

部会長	齋藤 潮	前掲
委員	上島顕司	国土技術政策総合研究所空港研究部空港ターミナル研究室長

●道路・橋梁部会

部会長	田村幸久	前掲
委員	佐々木葉	早稲田大学教授
委員	松崎 喬	大日本コンサルタント株式会社上席技師

●街路・公園部会

部会長	中井 祐	前掲
委員	小野良平	東京大学大学院准教授
委員	小野寺康	有限会社小野寺康都市設計事務所代表

※委員所属は 2008 年 1 月現在